

令和4年度

業 務 報 告 書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

公益財団法人 内田農業振興会

住 所 東京都立川市柴崎町3丁目5-24

電 話 042-528-1561

目 次

1. 事業の概況	
I. 農業振興のための事業	1
II. 農業に功労のある者の顕彰事業	7
III. その他の事業	8
IV. 主要業務報告	9
2. 財務諸表に対する注記	11
3. 令和4年度計算書類 附属明細書	12

事業の概況

第2年度

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

本都農業は、都市化する厳しい農業環境の中で、都市農業の有利性を活かして消費者に直結した新鮮で安全・安心な農産物の提供と自然環境の保全など、多面的な機能と役割を担っています。

しかしながら、農業の担い手の高齢化・後継者不足や農地の減少と遊休農地の増加や、気候変動による農作物への影響など農業環境は一層厳しい状況にあります。

このような状況において、当財団の設立者であり、農業の近代化に功績を残した内田秀五郎先生の意志を受け継ぎ、東京農業の振興に寄与することを目的として農業後継者の育成その他農業振興のための助成事業、農業に功労のある人の顕彰事業を行いました。

令和3年4月1日付で東京都知事から公益財団法人として「認定」を受け2年目の事業年度となり、昨年度に引続き新型コロナウイルスの影響から助成事業において一部申請案件が中止となりました。

I. 農業振興のための事業

1. 農業の先進事例の調査研究に関する事業

農業の先進事例の調査研究に関する事業として、先進的な農業経営等の調査研究活動に対して助成を行いました。

(1) 先進的な農業経営等の調査研究活動

東京都農業会議は、東京都内の農業委員会と連携して、企業的農業経営を確立し実践している先駆的な経営を広く普及するとともに、企業的農業経営を目指す多くの農業者の指標となるよう、企業的農業経営顕彰事業を実施しています。さらに、後継者が誇りを持って農業経営に参画し地域農業の新しい担い手となるよう農業後継者顕彰事業を実施しています。

企業的農業経営顕彰事業については、今年度までに、3,881経営・集団、農業後継者顕彰事業については、1,056組を顕彰しており、これら受賞者は東京農業の模範として地域農業を支えています。企業的農業経営顕彰事業より顕彰された39経営・集団、農業後継者顕彰事業24名を紹介した「新しい東京農業の担い手」を発行(1,200部発行)した東京都農業会議に助成しました。

本冊子は、令和5年2月開催の第64回東京都農業者大会で配布し、東京農業の重要性について紹介しています。





＜企業の農業経営顕彰事業現地視察①＞



＜企業の農業経営顕彰事業現地視察②＞

2. 農業後継者育成のための事業

農業の担い手である農業後継者の育成と確保は重要な課題であることから、以下の活動に助成を行いました。

(1) 各種生産団体が行う農業視察研修への助成

新型コロナ感染拡大の影響から4年度の申請はありませんでした。

(2) 各種生産団体が行う営農・農政活動への助成

① J A 東京女性組織協議会

J A 東京女性組織協議会は、東京農業の食と営農を基軸とした活動や高齢者対策、J A 女性部が継承してきた経験知識を活かした活動を実践しておりますが、その年間活動に対して助成を行いました。

《今年度の主な活動》

5月＜山梨研修旅行＞

4班にわけ日帰りにて研修旅行を開催、合計547名が参加しました。



10月＜東京味わいフェスタ2022＞

東京国際フォーラムへブース出店に参加、「マルシェ販売対応」を行いました。

2月＜J A 東京グループ女性リーダー研修会＞

令和5年2月8日（水）立川パレスホテルにて、情勢報告「女性参画について」に続き「ケアウォーキング100歳まで歩こうひざ痛・腰痛予防」の講演会を行ないました。



3月<令和4年度女性協リーダーセミナー・第38回東京都家の光大会>

令和5年3月6日(月)中野サンプラザにて「JA女性組織活動体験発表」「家の光記事活用体験発表」を行いました。

《全国女性協・関東甲信地区等と連携した活動》

JA全国女性協・関東甲信越地区女性協等と連携した活動では、総会・事務局合同会議と関東甲信地区リーダー研修会や家の光学習活動へWeb等により参加しました。

②JA東京青壮年組織協議会

JA東京青壮年組織協議会は、次代の農業の担い手として、農政活動・営農活動・組織活動を中心に現場に根ざした実践的な活動を実施しており、「令和4年度リーダーセミナー・組織活動発表大会」を都民ホールにて令和4年9月16日(金)に開催し、その事業に助成しました。

最初に行われた「令和4年度組織活動発表大会」では、5JA青壮年部の発表者よりそれぞれ農業青年の主張や青壮年部の活動発表があり、JA東京中央砦青壮年部のテーマ『シン・キヌタ』が最優秀賞を受賞しました。

その後、JA東京むさし小平地区青壮年部よりタイトル「農ライフ NoLife!! ～畑からまっしぐら～」のPR動画の発表がありましたが、エントリーがこの1作品のみであったためコンテスト審査は行われませんでした。



また、引続き元都青協委員長でJA東京あおば管内の農業者である白石農園代表の白石好孝氏によりテーマ『ともに都市農業のみちを歩もう』の講演会が行われました。

(3) 東京都高等学校農場協会が行う農業高校生研修活動助成

東京都高等学校農場協会は都内農業高校5校で組織され、その農業高校生を対象に、相互交流を深め、農業について学び、将来も連携を保ちながら都市農業や社会の発展に貢献する人材を育成しており、農場協会が実施した農業高校生を対象とした研修活動に助成しました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で研修会が中止されましたが、今年度は2月に都



立農業高校を幹事校として「NTT東日本中央研修センターの視察研修会」が開催され、各校生徒24名、引率教員6名、計30名で東京都調布市にあるNTT東日本中央研修センターを訪問し、テーマ「最先端の農業の動向について」の視察研修を行いました。

その研修内容は、IoT、AIを使った農業に関する具体的な事例を中心とした先端的事例の紹介をメインとしたもので、農業を取り巻く環境説明、調布の遠隔営農指導やベジアイシティ、畜産（ビオストック）の取り組みについて受講後、トマト農場でスマートグラス体験＜映像による疑似体験＞、都市型バイオガスプラントの見学＜給食調理残菜を液体肥料に再生＞を行い、受講生たちの興味と関心は非常に高く貴重な体験となり、多くの参加者からとても有意義で刺激のあった研修会との報告を受けました。

(4) 農業後継者のふれあい交流活動助成

担い手である農業者の配偶者確保のため、出会いの場としての交流会の開催に対して助成しました。

①東京むさし結婚相談センター

J A東京むさし結婚相談センターでは、農業後継者である男性を募集し、上期にはお見合いシミュレーションを行い、本番のお見合いに向け自己PR方法や会話の作法などを学ぶセミナーを開催しました。

下期には、東京ドームホテルでJ A東京むさし・東京あおば・東京中央による合同婚活交流会を開催し、28名が参加しました。当日は自己PRシートの交換や食事を楽しむなど交流を図り、5組のマッチングが成立しました。



②J A東京青壮年組織協議会

J A東京青壮年組織協議会は、東京農業の将来を担う後継者・青壮年部員の育成を目的に、都内J A青壮年部員を対象に農業者限定のふれあい交流会を開催しました。特に、ふれあい交流会の前に「コミュニケーションセミナー」を銀座会場（実出席）ならびにWeb出席で開催、その後「男を磨く1日変身ツアー」を原宿会場にて交流会前に開催したことで男性の魅力と自信の向上に繋がり、高いマッチング率が実現しました。参加者からのアンケートも好評で、全参加者より「大変満足」「やや満足」の回答が寄せられ、今回のふれあい交流会を実施したことにより都内農家男性のイメージ向上に貢献ができました。（参加者：男性25名、女性12名 合計27名）



3. その他農業振興のための事業

東京農業の振興を図るため、新鮮で安全・安心な農産物を消費者に提供するための基盤である農地の保全や有害鳥獣の被害防止、地産地消活動、東京農業の重要性とPRのため地域住民・消費者との交流活動に対して生産団体や農業者が行う活動へ助成を行いました。

(1) 残留農薬検査活動助成

農産物の生産基盤である農地の残留農薬検査により、安心・安全な農産物を消費者に提供するため、土壌検査（アルドリン・ディルドリン・エンドリンの残留）を実施した農業者（4団体・30件）に対し助成しました。

なお、6団体で88件の申請がありましたが、新型コロナウイルス感染症予防等により、実績は30件に留まり2団体の取り下げがありました。

(検査数の内訳)

西東京農協霞園芸生産組合（JA西東京）	5件
東京南農協野菜部会連絡協議会（JA東京みなみ）	18件
マイنز農協青壮年部（JAマイنز）	5件
東京みどり農協野菜生産部会（JA東京みどり）	2件
計	30件

(2) 地産地消活動助成

新型コロナ感染拡大の影響から4年度の申請はありませんでした。

(3) 有害鳥獣駆除活動助成

有害鳥獣による農作物被害を軽減して農業者の営農意欲低減の防止と、農地を健全に保全することを目的として農業者（5団体）に助成を行いました。

ハクビシンを始めタヌキ・アライグマ・アナグマ等による食害防止のための有害鳥獣駆除機器等の購入および捕獲鳥獣の処分を行いました。

東京都において、近年ではペットの野生化や山地に生息している野生の鳥獣が市街地に出没するなど農産物の被害が深刻化しております。この駆除活動を行うことにより被害の抑制に繋がっています。

① 捕獲獣の内訳

団体名	ハクビシン	タヌキ	アライグマ	アナグマ他	助成金申請／処分
JA東京みなみ野菜部会連絡協議会	25	37	55	2	未申請0頭（実績119頭）捕獲器具への助成
JA町田市野菜部会	5	11	13	3	申請35頭（実績32頭）外部委託
JAマイنز果樹植木盆栽部会	7	15	3	—	申請40頭（実績25頭）外部委託
JA東京みどり野菜生産部会	1	—	—	—	申請25頭（実績1頭）外部委託
JA東京あおば城北ぶどう研究会	18	18	—	—	申請25頭（実績36頭）外部委託
合計	56	81	71	5	213頭

(注) 申請件数を最大として捕獲実績に対して助成



②機材の購入

東京南農協野菜部会連絡協議会に対し、駆除活動に使用する箱わな・箱わな管理棚・防塵マスク・炭酸ガスの購入助成を行いました。

J A西東京グリーンセンター生産組合からは「電気柵」購入の申請がありましたが、行政等からの助成金制度で費用が充足したために申請は取り下げとなりました。



(4) 地域住民・消費者との交流活動助成

①東京都農業祭実行委員会

東京都が主催する農林水産物や伝統・文化をPRするイベントである「東京味わいフェスタ2022」がコロナ禍による中止を経て4年ぶり開催され、協賛ならびにブース出店に対して助成を行いました。

10月28日から3日間、東京都丸の内界隈を中心に協賛開催して、東京都内で生産された新鮮な農畜産物を都民および都内で働く近県住民に広く紹介し、東京農業の元気をアピールすると共に、都市農業の重要性をより多くの消費者にPRできました。



②マインズ農協粕江地区青壮年部

「粕江市食育ラリー」の申請がありましたが、粕江市からの助成金で総支出費用を補うことができたため、当財団助成金の申請が取り下げられました。

4. 助成対象事業別の実績

事業内容	交付決定額(円)	実績額(円)	備考
先進的な 農業経営等の調査活動	462,000	462,000	東京都農業会議 「新しい農業の担い手」発行
各種生産団体が行う 農業視察研修	0	0	申請なし
各種生産団体が行う 営農・農政活動	100,000	100,000	J A東京女性組織協議会 J A東京青壮年組織協議会
東京都高等学校農場協会が 行う農業高校生研修活動	100,000	73,000	N T T東日本中央研修センター の視察研修
農業後継者の ふれあい交流活動	150,000	150,000	J A東京むさし結婚相談センター J A東京青壮年組織協議会
残留農薬検査活動	264,000	90,000	30検体の検査実施 コロナ禍等で2件取り下げ
地産地消活動	0	0	申請なし
有害鳥獣駆除活動	350,000	216,000	捕獲獣の処分 箱わな等機材購入
地域住民・消費者交流活動	100,000	50,000	行政全額負担により1件取り下げ
合 計	1,526,000	1,141,000	

II. 農業に功労のある者の顕彰事業



令和4年度 公益財団法人 内田農業振興会功労者表彰式 令和4年11月22日 於:大國魂神社

東京都（島しょ地区除く）において多年に亘り農業に従事し、農業の発展及び振興に貢献し、その功績が顕著な農業者を表彰しました。

各地区農業委員会、農業団体に対し推薦を依頼し、当財団の表彰規程により理事会で審査を行い表彰者の決定を行いました。

- (1) 推薦依頼 令和4年4月22日
- (2) 依頼先
 - ・JA組合長
 - ・農業委員会会長
- (3) 推薦締切 令和4年7月31日
- (4) 審査会
 - ・理事会 令和4年9月9日
 - (令和4年9月22日 評議員会に報告)
- (5) 表彰式 令和4年度功労者表彰式
 - ・開催期日 令和4年11月22日
 - ・開催場所 大國魂神社
- (6) 顕彰内容
 - ・緑綬功労章 11名 紫綬功労章 3名
 - ・感謝状贈呈 17名

Ⅲ. その他の事業

農業振興のための助成事業、農業に功労のある農業者の顕彰事業以外に、東京農業の振興と発展のための事業を行いました。

1. 毎年開催される東京都農業祭及び農業感謝祭に参加し、献穀と豊作祈願を行うとともに、東京農業の重要性を深めるPR活動を行いました。
2. 東京都において多年に亘り各種農業団体の発展に貢献し功績が顕著な当該団体の役職員に対して表彰を行いました。

農業団体より推薦を受け、当財団の表彰規程により理事会で審査を行い、表彰者を決定しました。表彰は農業者の功労表彰式と併せて実施しました。

- ・緑綬功労章2名・紫綬功労章 12名

年 月 日	処 理 事 項	備 考
9. 9	理事会（12名出席） ①令和4年度農業功労者顕彰事業の審査 ・緑綬功労章 13名 ・紫綬功労章 15名 ②令和4年度・下期の助成金申請 ③評議員会の招集について	JA東京第1ビル
9. 22	評議員会（8名出席） ①令和4年度農業功労者顕彰事業の審査（報告） ②令和4年度・下期の助成金申請（報告）	JA東京第1ビル
9. 28	企業的農業経営顕彰書類選考会	中野サンプラザ
10. 1	杉並区区政施行90周年記念式典	杉並区公会堂
10. 29	第51回東京都農業祭	東京国際フォーラム
11. 10	企業的農業経営顕彰審査会	JA東京南新宿ビル
11. 11	変更（役員補欠選任）の届出の提出・手続完了（提出先 東京都）	電子申請（都庁）
11. 22	令和4年度農業功労者表彰式挙行	大國魂神社
R5. 1. 5	令和3年度事業報告等の提出・手続完了（提出先 東京都）	電子申請（都庁）
2. 16	第64回東京都農業委員会・農業者大会	J:COMホール八王子
2. 28	令和5年度上期助成金申請受付締切	
3. 10	理事会（11名出席） ①令和4年度正味財産増減補正予算書 ②令和5年役員報酬 ③令和5年度資金調達および設備投資の見込み ④令和5年度事業計画・正味財産増減予算書 ⑤令和5年度・上期の助成金 ⑥評議員の招集	JA東京第1ビル
3. 23	評議員会（7名出席） ①令和4年度正味財産増減補正予算書 ②令和5年役員報酬 ③令和5年度事業計画・正味財産増減予算書	JA東京第1ビル
3. 29	令和5年度事業計画書等の提出（提出先 東京都）	電子申請（都庁）

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

公益法人会計基準(平成 20 年 4 月 11 日 平成 21 年 10 月 16 日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 消費税の会計処理

消費税の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	65,301,762	0	0	65,301,762
特定資産				
農業振興事業積立資産	77,703,216	0	0	77,703,216
合 計	143,004,978	0	0	143,004,978

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
定期預金	65,301,762	65,301,762	0	0
特定資産				
農業振興事業積立資産	77,703,216	77,703,216	0	0
合 計	143,004,978	143,004,978	0	0

4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等 の名称	交付者	前期末 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期末 残高	貸借対照表 上の記載区分
運営助成金	J A 東京中央会	0	350,000	350,000	0	
	J A バンク東京信連	0	350,000	350,000	0	
	J A 全農東京	0	350,000	350,000	0	
	J A 共済連 東京	0	350,000	350,000	0	
	J A 東京厚生連	0	100,000	100,000	0	
	東京都農業信用基金協会	0	100,000	100,000	0	
	都内 J A	0	4,200,000	4,200,000	0	
	(一社) 東京都農住都市支援センター	0	100,000	100,000	0	
	(一社) 東京都農業会館	0	2,000,000	2,000,000	0	
合 計		0	7,900,000	7,900,000	0	

令和4年度計算書類 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細（重要な固定資産の明細）
財務諸表に対する注記2. に記載している
2. 引当金の明細
該当なし

上記のほか、令和4年度貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第33条に規定する附属明細書「貸借対照表及び損益計算書の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 5年 6月 1日
公益財団法人 内田農業振興会